

# アメリカの世界制覇戦略を見抜いて行動しよう。

## —ケネディ駐日米大使「集団的自衛権」歓迎の談話—

福地春喜

2010年、NPT再検討会議で、「核兵器のない世界」の実現、核兵器禁止条約の交渉開始が合意された。その運動の最大の障害は核抑止力論である。オバマのプラハ演説は、なぜか、日本ではもてはやされた。私の接した外国人は、そうは言ってもオバマは、そのすぐ後に核抑止力を強調している、と言っています。プラハ演説を客観的に、冷静に受けとめています。アメリカの民主的な法律家と懇談した時ですが、以下のようなことを言っていました。共和党であろうと民主党であろうと、アメリカのやることに変わりはない。ただ、共和党の大統領は本音をズバリ言うが、民主党の大統領は、前置きを言ってから本音を語る、と。いわば、ハードとソフトの差しかない、と。

「2010年の合意実現の最大の障害は核抑止力論」

「米国は、核兵器のない世界に向けて、具体的な措置を取ります。冷戦時代の考え方に終止符を打つために、米国は国家安全保障戦略における核兵器の役割を縮小し、他国にも同様の措置を取ることを求めます。もちろん、核兵器が存在する限り、わが国は、いかなる敵であろうとこれを抑止し、…同盟諸国に対する防衛を保証するために、安全かつ有効的な（核）兵器を維持します。（2009年4月オバマ大統領のプラハ演説より）」

オバマのプラハ演説は、前置きがあって、「も

ちろん……」というところから本音が語られたわけでしょう。全文を読みこなし、真意をくみとらなければならなかったわけでしょう。藩基文国連事務総長は見抜いていました。

—2010・8・6—

「核抑止論は安全保障に名を借りた妄想  
藩基文国連事務総長 2010年8月6日」

「核兵器廃絶は、空想的、時期尚早、実際に不可能、非現実的などといった理由から、軍縮など夢物語にすぎないというのです。しかし、こうした指摘はむしろ、軍縮に代わる策のほうに見事に当てはまります。それは核抑止力への際限ない依存、飽くなき軍拡競争、野放しの軍事費増大、そして税金の無駄遣いに他なりません。私たちはこれらにふさわしい呼び名を付けなければなりません。それこそまさに幻想であり、安全保障に名を借りた妄想なのです。」

最近、オバマ大統領に任命されてやってきたケネディ大使は、安倍総理の集団的自衛権容認の方向を、積極的に歓迎する旨の談話を出しています。もっと早くからオバマの本質を見抜くべきではなかつたらうか。そして、日米安保条約を廃棄させる運動を大きく進展させるべきではなかつたらうか、あの60年安保闘争のように。ようやくここに至って、安倍の支持率が50%割ったようですが、とにかく退陣するまでやらなくてはならないですネ。以上

（草の根運動会員）